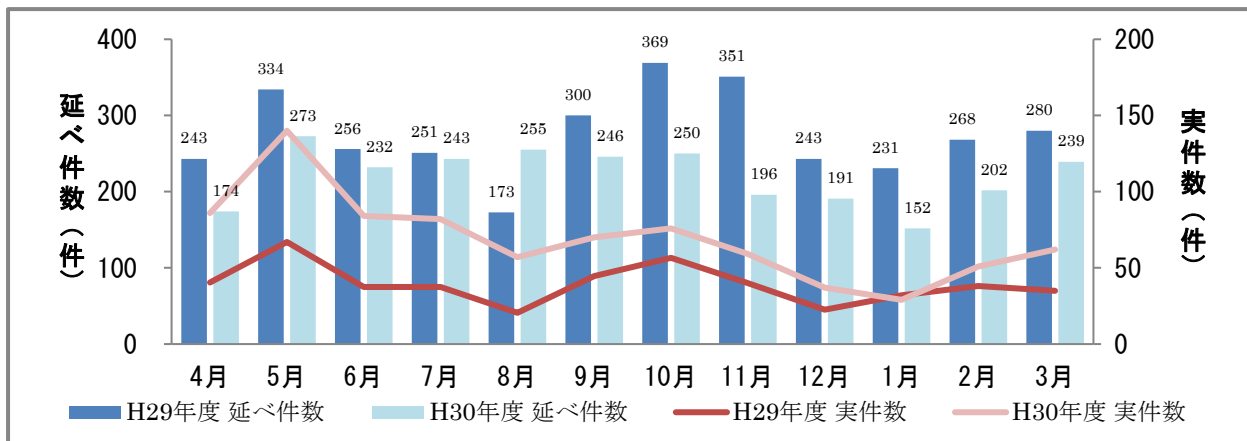
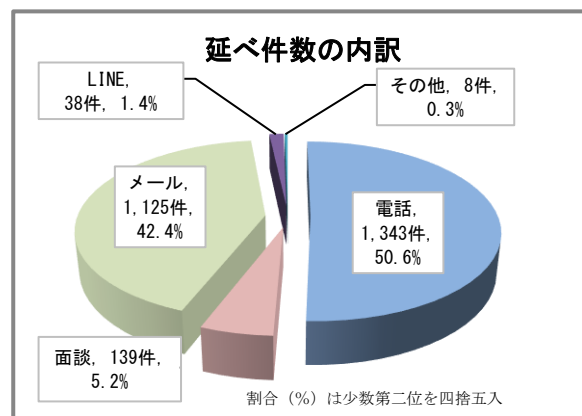
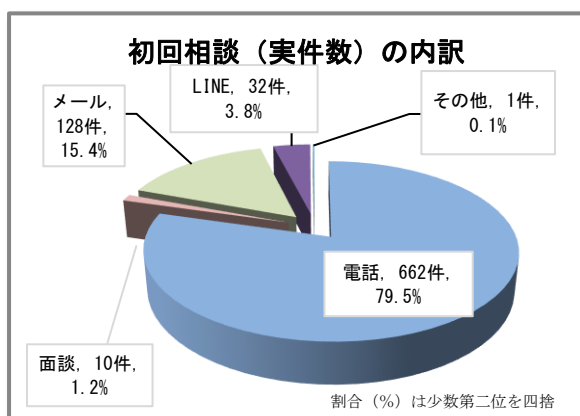


1 月別相談受付状況



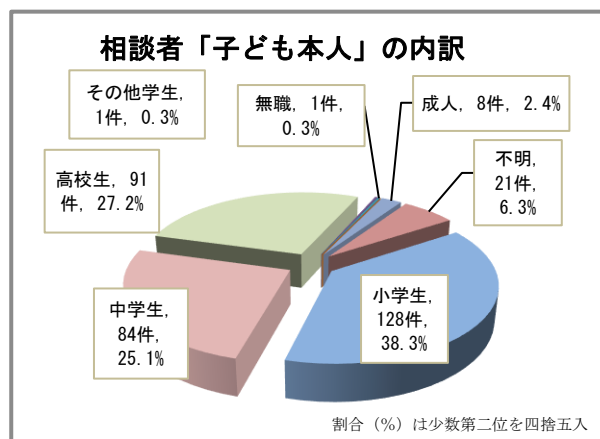
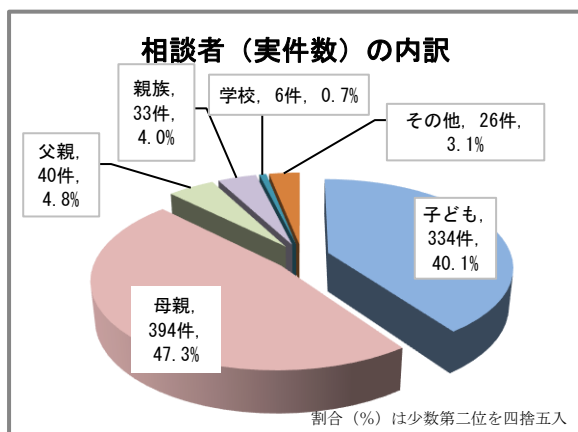
平成 30 年度は、5 月と 8 月に子ども用相談カード（名刺の大きさ）を配布（5 月：小学生及び特別支援学校生徒、8 月：中学生及び高校生）しました。また、2 月には大人向け広報紙「あしすと通信」を、学校を通じて全生徒の保護者に配布しており、これらの広報物の配布直後には、PR の効果により相談件数が増加する傾向が続いています。

2 相談方法の内訳



初回相談については、電話による相談が最も多く約 8 割となっています。延べ件数についても電話による相談が 5 割を占めますが、メールによる相談はやり取りの回数が増える傾向があるため、延べ件数では 4 割以上の割合を占めています。

3 相談者、相談者「子ども本人」の内訳



相談者とは、相談してきた人のことをいいます。子ども本人及び母親から相談が合わせて約9割を占めており、子ども本人の中では、小学生からの相談が多い傾向があります。

延べ件数全体における相談者と相談方法のクロス集計は、下表のとおりです。

例年同様、子ども本人からはEメールによる相談の割合が多く、保護者からは電話による相談の割合が多くなっています。

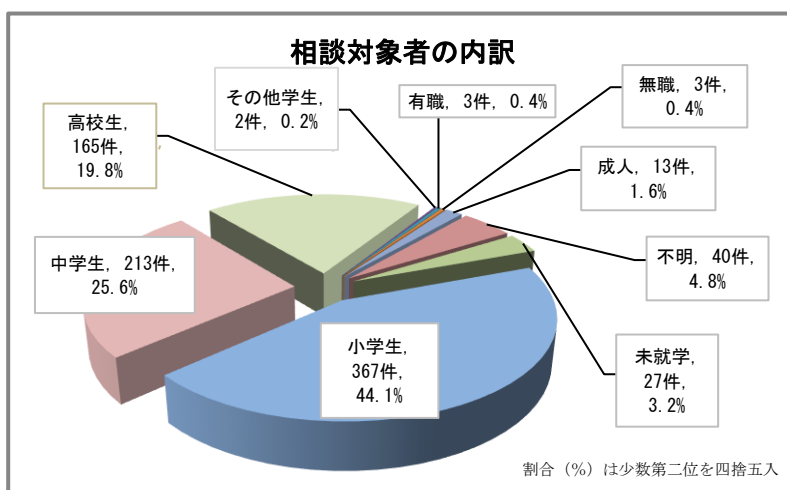
相談者と相談方法（延べ相談者数）

区分	子ども本人	父親	母親	親族	学校	その他	合計
電話	438	67	727	42	26	43	1,343
	16.3%	2.5%	27.0%	1.6%	1.0%	1.6%	49.9%
面談	68	21	75	8	5	1	178
	2.5%	0.8%	2.8%	0.3%	0.2%	0.0%	6.6%
Eメール	954	13	149	0	0	9	1,125
	35.4%	0.5%	5.5%	0.0%	0.0%	0.3%	41.8%
LINE	38	0	0	0	0	0	38
	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%
その他	3	1	2	0	0	2	8
	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%
合計	1,501	102	953	50	31	55	2,692
	55.8%	3.8%	35.4%	1.9%	1.2%	2.0%	100.0%

※相談者が複数の場合があるため、合計は相談件数に一致しない。

4 相談対象者⁽⁵⁾の内訳

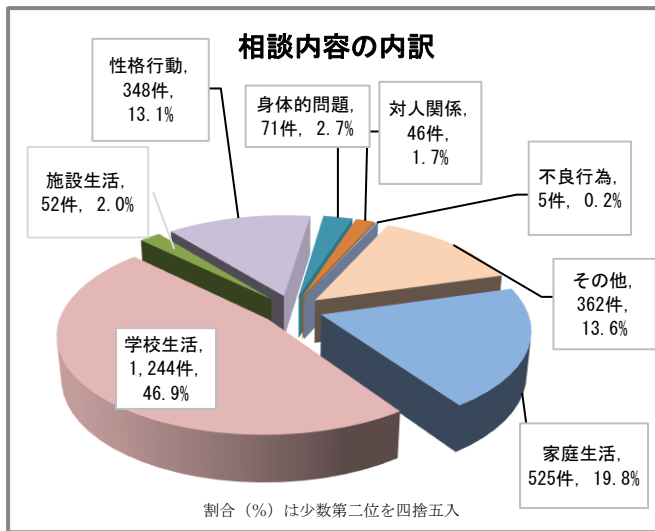
相談の対象となった子どもの内訳は、小学生が4割以上を占めており、中学生が約3割、高校生が約2割を占めています。



(5) 相談対象者

相談の対象となっている子どもを指します。母親から小学生に関する相談があった場合には、「相談者」は母親となり、「相談対象者」は小学生となります。中学生の子ども本人が自分のことについて相談してきた場合には、「相談者」は子どもとなり、「相談対象者」は中学生となります。

5 相談内容の内訳



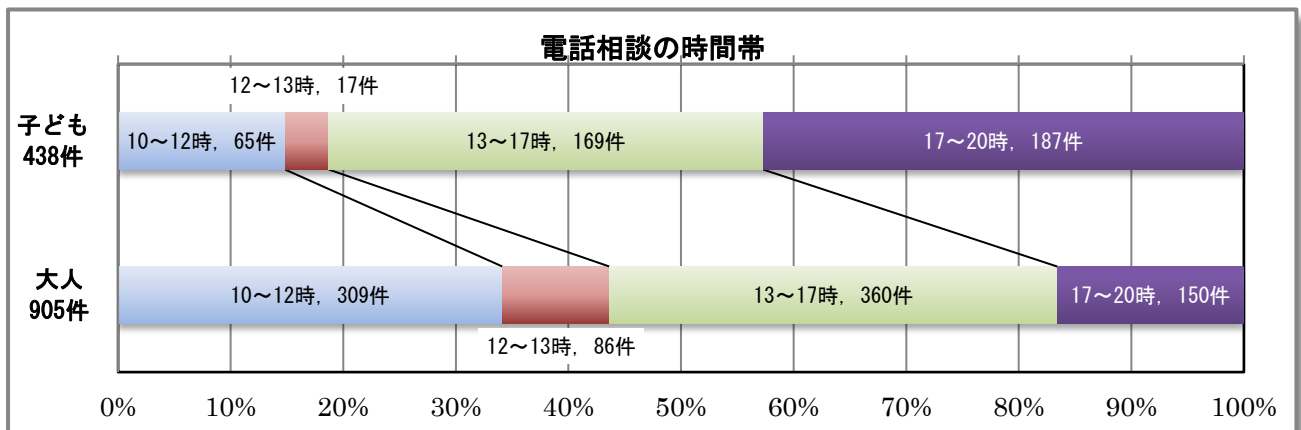
子どもアシストセンターでは、相談内容を「家庭生活」、「学校生活」など8項目に分けています。

延べ件数全体で相談内容の内訳をみると、「学校生活」に関する相談が約5割を占め、次に「家庭生活」、「性格行動」についての相談が多く、例年と同様の傾向です。

さらに 33 の細目に分けると、上位 5 項目は、下記のとおりです。

子ども (1,497 件)		大人 (1,156 件)	
① 友人関係	252 件 (16.8%)	① 子どもと教師の関係	196 件 (17.0%)
② 学習・進路	198 件 (13.2%)	② 不登校	124 件 (10.7%)
③ 親子・兄弟関係	168 件 (11.2%)	③ 養育・しつけ	110 件 (9.5%)
④ 精神不安	154 件 (10.3%)	④ 親子・兄弟関係	82 件 (7.1%)
⑤ 子どもと教師の関係	59 件 (3.9%)	⑤ 友人関係	65 件 (5.6%)

6 電話相談の時間帯



13 時～17 時の時間帯には、子ども、大人双方から多くの電話相談を受けていますが、子どもについては、学校から帰ってきてからの時間帯（特に 17 時～20 時）にも多くの電話相談を受けています。一方、大人からは、午前中にも多くの電話相談を受ける傾向があります。

相談時間を 20 時までとしていることは、特に子どもにとって有効であるといえます。

7 その他

相談件数として計上はしていませんが、子ども専用の通話料無料電話には、無言電

話やいたずら電話が 709 件ありました。（平成 29 年度は 526 件）

かけてきたのは、ほとんどが子どもであると思われませんが、中には相談をためらっていたり、相談員の反応を確認したいという気持ちが含まれていたりする可能性もあるため、慎重に対応しています。